



〒950-1189 新潟市西区善久772-2

発行所 新潟日報社
〒950-1189 新潟市西区善久772-2
郵便番号 00620-2-538

2012年(平成24年) 5月18日 金曜日

目覚める食料基地

△5▽



創刊70年・源流135年

八海山を望む南魚沼市浦佐。米飯加工業「めし徳」の工場がフル稼働を続けている。製造しているのは食事制限の人向けに特別なコメを使った備蓄食「はんぶん米」。東日本大震災後に注文が急増した。

「1〜3月は工場がほぼ休みなしの24時間態勢。約10万食を作った」と、めし徳代表の山崎徳男さん(44)。商品開発した米穀販売会社「エコ・ライス新潟(長岡市)」から製造委託を

3.11 新潟を拓く

備蓄

「中越」教訓開発進む

自治体に危機感注文急増

受ける。タンパク質の体内吸収率が一般のコメの半分程度とされる県産米「春陽」を使用。静岡西県内などの約40自治体から新規の注文があつた。そのうちの1つ、愛知平石町(平石)は「腎臓に56は」



炊いたコメを乾燥させて製造する保存食「はんぶん米」。水や湯をかけるだけで食べられる。南魚沼市浦佐の「めし徳」

病患者の食事制限がある人は災害時の食事を不安に思う人は多い」と話す。避難所でもおにぎりやパンが配られても食られない人もい

るからだ。震災直後、エコ・ライスの3倍を超える約19万食。07年に発売後、自治体から

要請を受け、宮城、岩手、福島、3県の病院や避難所3万食ずつある程度だった。

県あま市は「避難所食は塩分などが多く、体調を崩す人もい

る。被災者ごとのきめ細かい対応が必要と判断した(安全安心課)と説明する。2011年度のはんぶん米の販売量は前年度

の3倍を超える約19万食。07年に発売後、自治体から要請を受け、宮城、岩手、福島、3県の病院や避難所3万食ずつある程度だった。

産業研究会、中越地震などの教訓と県内企業の技術力を生かすために各企業にアドバイスしてきた。県農業総合研究所食品研究センター(加茂市)の助言を得て、ヒカリ食品(五泉市)が開発した缶詰の「はんぶん米」が殺到している。自治体からの注文が集中した昨年12月、今年3月には約20万個を出荷。社長の高橋治雄さん(73)は

「震災を機に社会の防災意識が高まっているので、今後も需要が伸びていきそうだ」とみる。今年2月28日に開かれた都議会本会議。災害時の一斉帰宅による混乱を抑えるため、食料や飲料水3日分の備蓄などを事業所に求める条例案の審議が行われた。石原慎太郎知事(79)は質問への答弁で震災時の帰宅困難者問題に触れ、「災害時に脆弱な都市は国際的な信用を得られない。あの大混乱を二度と東京で起こさない」と強調。条例案は全会一致で可決された。

「NICCOの防災・発するための勉強会を開催された。NICCOでは今後、大規模災害に加え、暴風や停電にも対応する商品開発と販売に向け、新たな研究会を設立する予定。6月にも参加企業の募集を始める。近い将来に起こるとされる首都直下型地震への備えは民間にも広がる。豊水さんは力説した。「中越、中越沖地震を経験した新潟で備蓄食品が生まれた。それによって被災者の食を支えることは一つの使命だ」